

厚生労働省「第10回 健康寿命をのばそう！アワード」にて優良賞を受賞

取組タイトル 「慢性疾患をもつ思春期の子どものピアサポートプログラム」

受賞者名 福岡大学筑紫病院小児 IBD 研究会

取組課題 基盤課題 B「学童期・思春期から成人期に向けた保健対策」

当院では、2019年より10代のIBD(炎症性腸疾患)の皆さんの学校生活における実態と対処法等に関する調査研究を行っております。2020年には医療・教育・デザイン分野から9つの専門職(医師・看護師・薬剤師・臨床心理士・栄養士・臨床保育士・教諭・看護教諭・デザイナー)が有志で集まり、10代のIBDの皆さんを中心としたワークショップを実施しました。その成果物のひとつとして冊子『学校生活をよりよいものにするために』を発行しました。そうした取り組みが評価され、この度、厚生労働省子ども家庭局長賞団体部門優良賞を受賞しました。冊子の活用でIBDの子ども達が周囲の理解を得られ、より生活しやすい場面が多くなるよう、今後も研究活動を続けていきたいと思っております。



研究代表者：臨床保育士 高野 祥子(看護部)

※本研究・取組みは、JSPS 科研費(20H01131)の助成を受けたものです

オスラー病外来のご案内

オスラー病は、遺伝性出血性毛細血管拡張症またはHHT(hereditary hemorrhagic telangiectasia)とも呼ばれ、全身の血管に生じた異常のため、鼻出血をはじめとする出血症状が起こりやすくなる遺伝性疾患です。成人では90%以上の割合で繰り返す鼻出血を生じます。口、指、鼻などに毛細血管拡張、肺・脳・肝臓・消化管などに動脈瘤奇形を生じることがあり、本疾患の特徴です。遺伝形式は常染色体優性遺伝であり、50%の確率で親から子に遺伝します。

脳神経外科・脳卒中センターでは、オスラー病の患者さんの診療が可能で、2ヶ月に1回、金曜日の午後におスラー病外来を開設しています(日程はお問い合わせください)。HHT Japan(日本HHT研究会)代表世話人、小宮山雅樹先生(大阪市立総合医療センター脳血管内治療科 主任部長)が診察を担当されます。

受診や紹介をご希望の方は、**福岡大学筑紫病院地域医療支援センター(092-921-0911)**までご連絡ください。

今後の予定

令和4年	1月28日(金)	午後	完全予約制
	3月25日(金)		
	5月13日(金)		

福岡大学筑紫病院 脳神経外科
教授 東 登志夫

診療日のご案内

	循環器内科	内分泌糖病内科	呼吸器内科	消化器内科	小児科	外科	呼吸器・乳腺外科	整形外科	形成外科(午前のみ)	脳神経外科	皮膚科(午後のみ)	泌尿器科	眼科	耳鼻いんこう科	放射線科
月	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
火	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
水	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
木	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
金	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

【受付時間】

〈平日〉8:40~11:00

※1 小児科の専門外来は要予約 ※2 皮膚科休診中

【休診日】

土曜日・日曜日・祝日

年末・年始(12月29日~1月3日) お盆(8月15日)

【面会時間】

〈平日・土曜日〉13:00~20:00 〈日曜日・祝日〉11:00~20:00

※面会の状況については、当院ホームページをご確認ください。

交通のご案内



JR・西鉄電車ご利用の場合

西鉄大牟田線「朝倉街道駅」下車……………徒歩3分

JR鹿児島本線「天拝山駅」下車……………徒歩3分

自家用車ご利用の場合

九州自動車道「筑紫野IC」より……………車で5分

県道31号線「鳥栖筑紫野道路」武蔵交差点より……………車で5分

※時間帯により、交通混雑が予想されますので、ご利用時間は目安としてください。

※なるべくJR、西鉄電車などの公共交通機関をご利用ください。

地域医療支援病院・地域がん診療病院
福岡大学筑紫病院
Fukuoka University Chikushi Hospital

〒818-8502 福岡県筑紫野市俗明院一丁目1番1号
Tel. 092-921-1011(代) Fax. 092-928-3890
http://www.chikushi.fukuoka-u.ac.jp/



ちくし



福岡大学筑紫病院の理念 あたたかい医療

2022.冬
vol.60

「基本理念」

私たちは地域に密着した救急医療を目指すとともに、大学病院として質の高い医療と情報を提供し、地域の皆様に安心と信頼を持っていただけるよう努めています。

その基本は「人間性に立脚した医療」、心の繋がりを大切に、患者さん本位の“あたたかい医療”を実践しています。

「基本方針」

1. 安全、安心な思いやりのある医療の実践
2. 大学病院として、高度先進医療の提供
3. 地域医療支援病院・地域がん診療病院として、情報発信とともに地域医療への貢献
4. 開かれた質の高い多職種協働によるチーム医療の実践
5. 患者の尊厳を尊重し、倫理観を備えた優しい心を持った医療人の育成

病院長就任のご挨拶

病院長 河村 彰



新年明けましておめでとうございます。
皆さまには健やかに新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

令和3年12月に柴田前病院長より病院長を引き継ぎさせていただきました。私の臨床における専門分野は冠動脈疾患で、炎症性サイトカインと動脈硬化についての研究で学位を取得し、福岡大学病院卒後臨床研修センターで医学教育に携わった後、令和2年4月から福岡大学筑紫病院 循環器内科の教授を拝命いたしました。この度は病院長として、これまで以上に地域から求められる医療を提供できるよう、さらなる体制の整備を図るとともに、経営改善など病院運営にも取り組んでまいります。

昨今、地域の高齢化が進む中、高齢者の尊厳保持と自立生活支援の目的のもと、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制を構築する取り組み、すなわち地域包括ケアシステムが重要視されています。一方で、入退院を繰り返す高齢心不全患者さんが大幅に増加する、心不全パンデミックの到来が予想されています。地域医療支援病院である当院では、地域医療支援センターを中心として、地域の医療機関や介護施設、訪問看護ステーション等と連携した一体的な地域医療の提供を推進しています。また、地域における脳卒中、心筋梗塞、心不全に関する診療体制の整備を進め、地域医療支援病院の役割の一つである救急医療の充実を図っています。令和3年4月には、地域がん診療病院としての機能も充実させるた

め、呼吸器・乳腺センターから、診療組織として呼吸器・乳腺外科を標榜しました。

さて、未だ完全な収束をみないCOVID-19の世界的な流行ですが、当院では厳密な感染症対策にもかかわらず、昨年院内クラスターが発生しました。現在は完全に収束しておりますが、これまでの間、個人・企業など公私を問わず多くの方々から、マスク等の医療物資・食料・メッセージなどの心温まるご寄附や差し入れをいただきました。心より感謝申し上げます。こういった経験から、令和3年4月より新たに感染制御部を開設し、感染症指定医療機関として、さらなる体制と教育の充実を図っております。

また、昨今の病院勤務医の過重労働問題、働き方改革等を踏まえ、当院においても医師等の労働環境整備も推進しています。令和元年7月から、土曜日の外来診療では予約診療も行わず、休診としています。さらに、同年8月から週休二日制を導入しました。今後も、医師をはじめ、職員がより快適に安心して勤務できる病院にしたいと考えております。

今後も引き続き地域の基幹病院として、地域医療支援病院、地域がん診療病院として、地域医療へ貢献していく所存です。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

放射線科

高度画像診断機器の共同利用により 地域医療のさらなる発展を目指します



放射線科 部長
高野 浩一

診療部長のご挨拶

令和3年4月に放射線科部長に着任いたしました高野浩一（たかのこういち）です。平成3年3月に福岡大学医学部を卒業した後、福岡大学医学部放射線医学教室に入局しました。その後、聖マリア病院画像診断部、同脳神経センター神経放射線科、福岡大学筑紫病院で画像診断全般を研修しました。平成12年に福岡大学に戻ってからは脳神経疾患のMRIをはじめ神経・頭頸部放射線診断、また四肢関節領域のMRI診断につき研修

しました。平成20年4月に現主任教授である吉満研吾教授が着任され、平成23年に吉満教授のご推挙により准教授に就任いたしました。その後は主に脳血管疾患のMRI診断につき研究してまいりました。

着任以来、当院の放射線科ならびに放射線部が筑紫地域の医療に担うべき責任の重さを痛感しております。引き続きのご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

筑紫病院放射線科の紹介

当院放射線科は、令和3年11月現在、専門医3名（高野浩一、山本良太郎、西山麻理恵）と助手（津田真司）の計4名の体制で、全身のCT、MRIおよび核医学検査（RI）の検査と診断、そして腹部の血管造影とIVRに従事しています。CTはシーメンス社製128列、MRIはフィリップス社製の3Tと1.5Tが稼働しており、毎日80～90例の読影に携わっています（表1・図1、図2）。新しいMRI撮像法として、造影剤を使用せずに脳血流を観測するASL（arterial spin labeling）（図3）や血管内信号の抑制により血管内と血管壁の観察を可能にし

たblack blood MRAなどの手法を導入しています。また本年11月より、新しいCanon社製の80列CT Aquilion Prime SPが稼働しています。

表1 令和2年度の放射線科施行検査件数

検査	全体	検査外来（他院紹介）
CT	14,972件	164件
MRI	5,640件	422件
IVR（腹部）	46件	
RI（核医学）	249件	4件

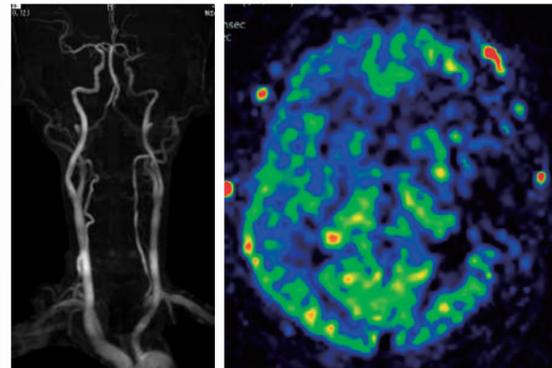
図1 128列CT
Siemens社製
Somatom Definition AS+



図2 3.0T MRI
Philips社製
Ingenia



図3 MRAとASL
左中大脳動脈閉塞と、同領域の血流低下がわかります



新しいCT Canon社製80列Aquilion Prime SPのご紹介

Canon社製の新しいCT機器Aquilion Prime SP（図4）では、近年新たに開発された逐次近似画像再構成法AIDR 3Dに加えて、AIとディープラーニングの技術に応用した画像再構成技術であるAdvanced intelligent Clear-IQ Engine（AiCE）法（図5）を搭載しており、従来のCTよりも低いX線被曝を維持しつつ、画質の向上を達成しています。また逐次近似法を用いた金属アーチファクト低減技術（SEMAR：Single Energy Metal Artifact Reduction）（図6）により、歯科金属や人工関節など体内金属に起因するアーチファクトを著明に抑制することが可能になっており、臨床的に大変有用であると考えています。さらに管電圧の異なる2種類の

X線を用いてCT撮影するデュアルエネルギーのアプリケーションを搭載しており、物質の弁別（造影剤と出血、痛風における尿酸結節など）に役立つことが期待されます。

図4 Canon社製 CT Aquilion Prime SP



図5 AiCE法

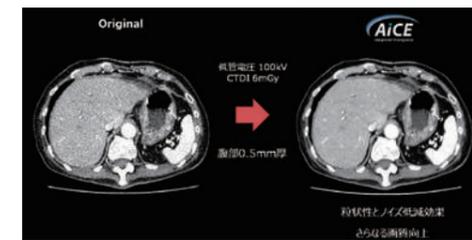


図6 SEMAR法



検査外来のご紹介

放射線科では、地域医療における「高度医療機器の共同利用」を目的として、近隣の医療機関からのCT・MRI・核医学検査の受け入れを行っています。これを「検査外来」と呼称しており、地域医療支援センターを窓口として、一日あたり平均4～5例ほどの検査のご依頼を頂いています。その内容は、胸部X線写真異常の精査の胸部単純CTや、腹部超音波検査で検出された病変の精査として単純または造影CT、胆道系病変の精査のための単純MRI（MRCP）、頭部～脊椎や四肢関節のMRIなど、幅広い検査を行っています。また現時点で件数は多くありませんが、骨転移検索のための骨シンチグラフィやパーキンソン症候群の精査のためのDaTスキャンなど、核医学・RI検査も受け付けております（図

7、図8）。予約枠はCTは10：30・14：00・14：30、MRIは12：00（2枠）、14：30（2枠）となっています。特に午後の枠はまだ余裕があり、検査の種類によっては当日でも対応可能な場合があります。検査についてのご相談がありましたら、当院の地域医療支援センター（直通 092-921-0911）までお気軽にお問合せください。

図7 骨シンチグラフィ

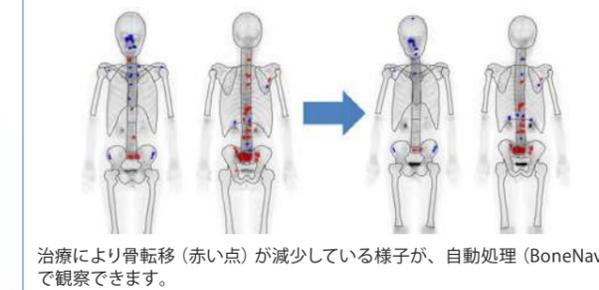
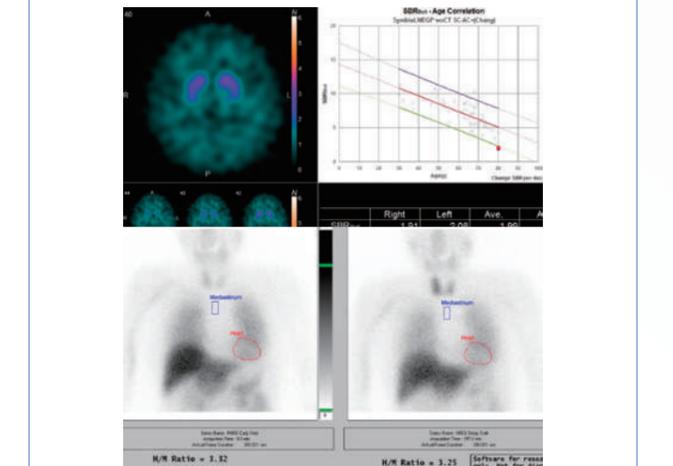


図8 パーキンソン症候群の精査のための核医学検査



ドパミントランスポーターシンチグラフィ（DaTスキャン、上段）で基底核の集積低下がわかります。MIBG心筋シンチグラフィで心筋の集積は保たれており、パーキンソン病やレビー小体型認知症は否定的と考えられました。